

令和元年9月4日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16183

研究課題名（和文）学校教育における防災教育の充実，防災の視点を取り入れた家庭科住居領域の教材開発

研究課題名（英文）Development of Teaching Material from the point of view of Disaster Prevention of Home Economics in junior high School.

研究代表者

黒光 貴峰（KUROMITSU, TAKAMINE）

鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授

研究者番号：50452925

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、学校教育における防災教育の充実に向けて、防災の視点を取り入れた家庭科住居領域の教材開発を目的とした研究である。開発した教材は、居室（8畳）と家具（ベッド、机、椅子、棚など家庭に置かれている家具）の模型教材（1/10の縮尺）であり、与えられた空間に家具を自由に配置しながら、安全な住まい方の視点を学習できる教材となっている。開発、実践、有効性の検討、改善を繰り返し、成果としては教材開発に留まらず、幼稚園、小学校、高等学校など他校種や他教科での活用方法の検討、安全を考えた室内環境の整え方以外での活用方法の検討も重ねて行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、学校教育における防災教育の充実に向けて、防災の視点を取り入れた家庭科住居領域の教材開発を目的に研究を行ってきた。それぞれの教科で防災の視点を取り入れることは、今後、起こり得る自然災害への備えとして、必須の課題、緊急を要する課題であるといえる。また、本研究では、教育対象が大きい教材として教室に取り入れることが難しい、各人のプライバシーと深く関係するため指導するのが難しい、といった特有の課題を持っている住居領域において教材開発を行ってきた。このことは学校教育における防災教育の充実を図るとともに、家庭科教育の充実にも繋がっている。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop disaster prevention educational resources for the purpose of improving disaster prevention education in schools. Research methods involved the following: collection of educational materials and resources related to disaster prevention created at teaching materials; analysis of these resources from the perspectives of practicality, structure, and applicability for use in educational settings; and development of resources for disaster prevention education.

研究分野：家庭科教育学・住居学

キーワード：家庭科教育 教材開発 模型教材 防災

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、被災区域が東日本全域に及び未曾有の大災害を引き起こした。東日本大震災に関しては、被災者の支援が求められる中、震災にかかわる検証や教訓の抽出が重要である。政府が行った防災に関する世論調査の結果をみると、防災に向けたこれからの課題として、防災意識が行動に直結していない、風化する防災意識、防災意識の地域格差、情報を収集する力と活用する力の育成があげられる。今後、起こり得る自然災害への備えとして、国民一人一人の防災意識の向上は、必須の課題、緊急を要する課題であり、防災教育の再考が必要である。

### 2. 研究の目的

以上のような背景を踏まえ、本研究は、学校教育において、「教科」を通じた教育として防災教育を充実させるために、防災の視点を取り入れた家庭科住居領域での教材開発を行なうことを目的としている。

### 3. 研究の方法

研究方法は、(1) 防災の視点を取り入れた家庭科住居領域での教材開発を行ない、(2) 教育現場で実施し有効性の検証を行った上で、(3) 教育現場への普及の検討を行った。具体的には、(1) については、教育現場の実態把握を行なった上で、安全な住まい方の視点を学習できる模型教材の作成を行った(平成 27 年度)。 (2) については、教材の活用に必要な時間の計測、実施課題の完成度、開発教材を使った授業に対する学習者と授業者の反応、の分析を行った。では、授業における教材を使った活動の所要時間を計測し、授業時間内に行えることの確認、では、授業の評価基準ならびに教材を使った活動の評価基準を設定し学習者が学習目標に達していることの確認、では、授業後生徒にアンケート調査を行い模型の導入によって、授業への意欲は高まったか、学習内容への興味・関心、知識・理解は高まったか、学習課題を自分なりに考えて工夫できたか、学習活動や発表が行いやすかったか、学習内容を具体的に考えやすかったか、授業は楽しかったか、このような授業をもっと受けたいと思ったか、等の確認を行った。また、授業者へのヒアリング調査を行い、教材の使いやすさ、教材を使うことで生徒への教育効果が高まった、等の確認を行った(平成 28 年度)。 (3) については、教育現場への発信、教員向けの研修の実施、開発教材の発展の検討、を行った。では、中学校技術・家庭科研究大会にて開発した教材の展示を行い、教材の活用方法の発信を行うとともに、教育現場での活用が可能かどうかヒアリング調査を行った。では、中学校、高等学校の家庭科の教員を対象に模型教材の活用の研修を行った。(3) については、幼稚園、小学校、高等学校などの他校種や他教科での活用方法の防災教育教材としての発展性の検討、家族の安全を考えた室内環境の整え方以外での活用方法の模型教材としての発展性の検討、ICTの活用や教材の活用方法の効果的な指導方法の検討を行った(平成 29 年、30 年)。

### 4. 研究成果

本研究は、学校教育における防災教育の充実に向けて、防災の視点を取り入れた家庭科住居領域の教材開発を目的とした研究である。開発した教材は、居室(8畳)と家具(ベッド、机、椅子、棚など家庭に置かれている家具)の模型教材(1/10の縮尺)であり、与えられた空間に家具を自由に配置しながら、安全な住まい方の視点を学習できる教材となっている。

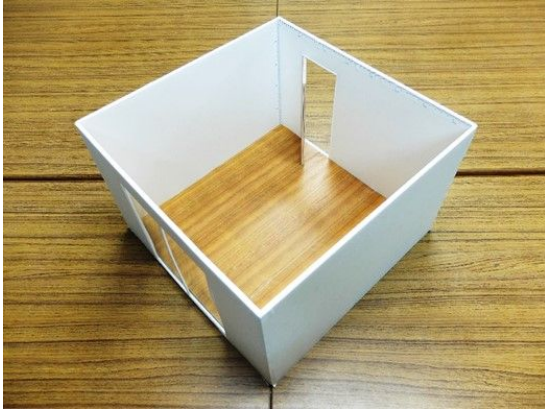


図 作成した模型教材（縮尺 10 分の 1）

防災の視点をおさえられていない配置例  
地震発生前



防災の視点をおさえられている配置例  
地震発生前



写真 教育現場での実践



写真 教員向けの研修会



写真 技術・家庭科研究大会での教材の展示



写真 ICT の活用

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

切口眞里,黒光貴峰,幼稚園教育における防災教育の教材開発,日本安全教育学会,2017年

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

## 6 . 研究組織

(1)研究分担者

なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：内村由佳理，江崎史織，小原聖子，切口眞里，  
徳重礼美，速水多佳子，山口隼人

ローマ字氏名：UCHIMURA YUKARI, ESAKI SHIORI, OBARA SYOUKO, KIRIKUCHI MARI,  
TOKUSHIGE HIROMI, HAYAMI TAKAKO, YAMAGUCHI HAYATO

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。